
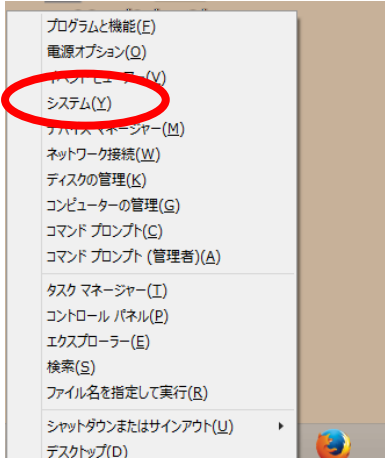


# Java 開発キッドのインストール方法

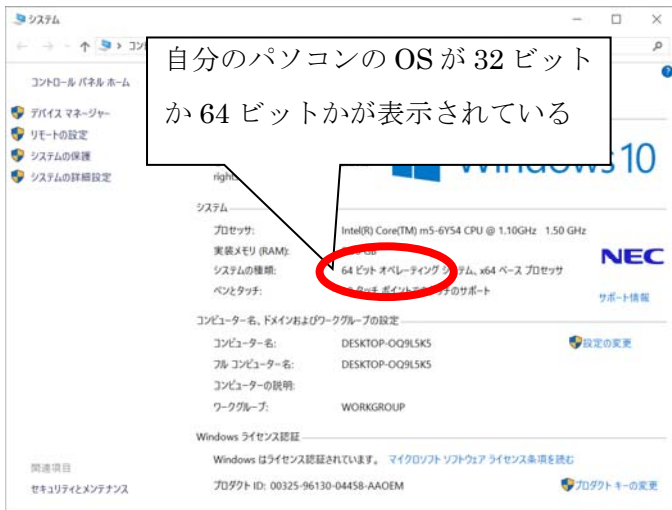
## 1. Java SDK のインストール

### 1.1 パソコンのシステムが 32bit or 64bit を確認する

Windows キー  を押しながら [x] キーを押して、[システム]を選択する。



「システム」という項目の「システムの種類」で確認出来る。



### 1.2 Java のダウンロード

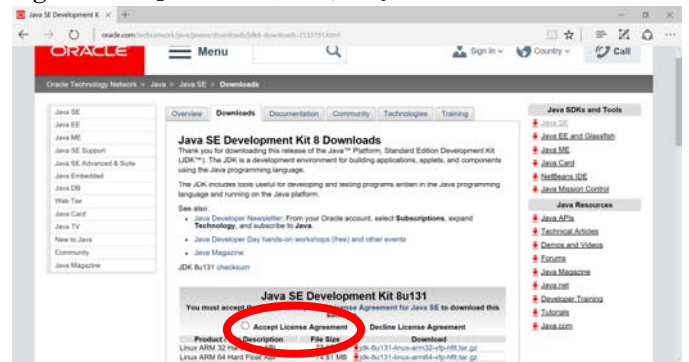
jdk-\*\*-windows-\*\*.exe をデスクトップに保存する。

(\*の部分はパソコンの機種によって異なる)

ブラウザで JAVA SE download と検索して下記の画面(英語のページ)に進む



「JDK ダウンロード」を押して、次の画面で Java SE Development Kit 8uXXX の「Accept License Agreement」をチェックする。



そして、自分のパソコンの Windows の種類によってダウンロードするファイルが異なるが、該当のファイルをクリックする。(以下の XXX は、バージョン番号)

32bit の場合は

jdk-8uXXX-windows-i586.exe

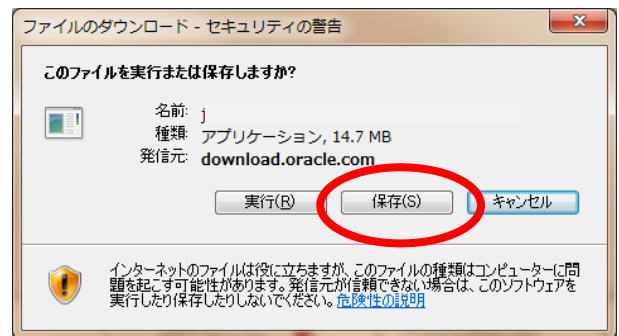
64bit の場合は、

jdk-8uXXX-windows-x64.exe



<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html>

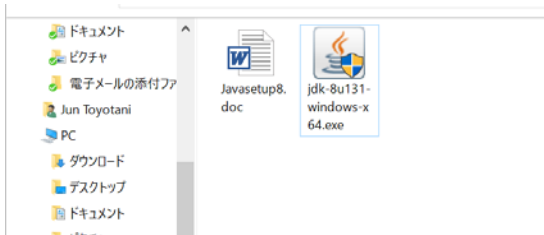
該当ファイルをクリックして、次のような画面で保存を押す。保存場所はデスクトップとする。



jdk-\*\*-windows-\*\*.exe の上で右ボタンを押して、「管理者として実行」を選択する。

**Jdk-8u131-windows-x64.exe** を自分の PC のデスク

トップにコピーして、コピー先(デスクトップ上)のものをダブルクリックする。




次にユーザアカウント制御画面が出て来たら OK ボタンを押して、次の画面に進み、インストールを押す。

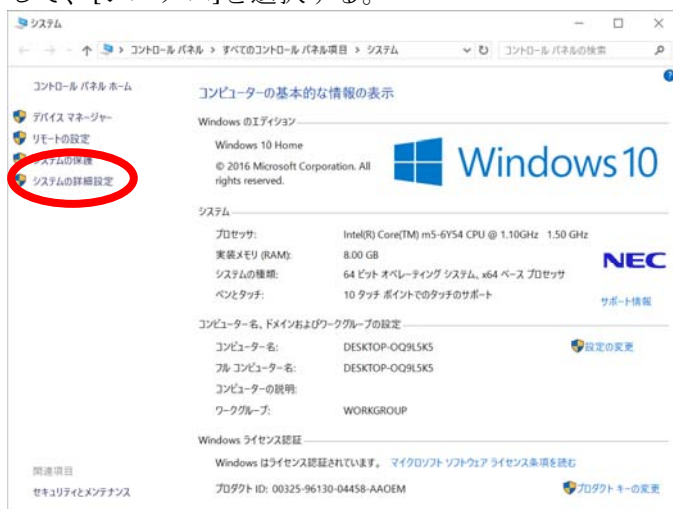


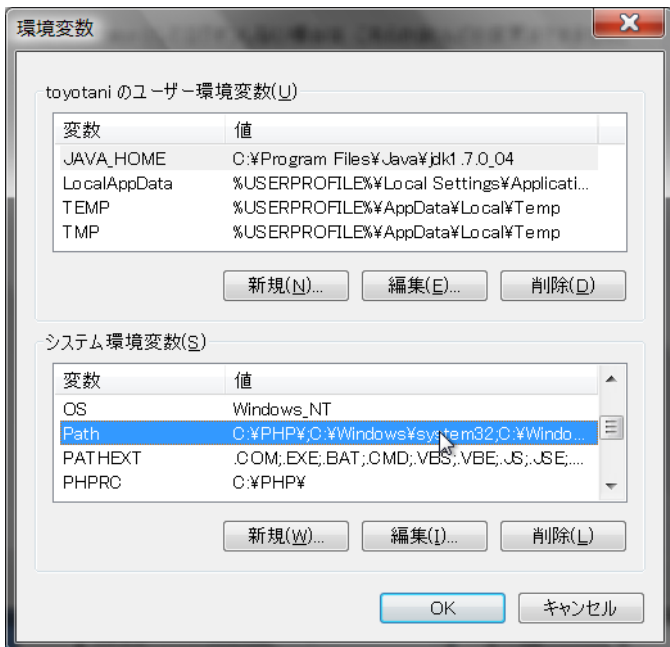
次の画面が出たら、閉じるボタンを押して、インストールを終了させる。



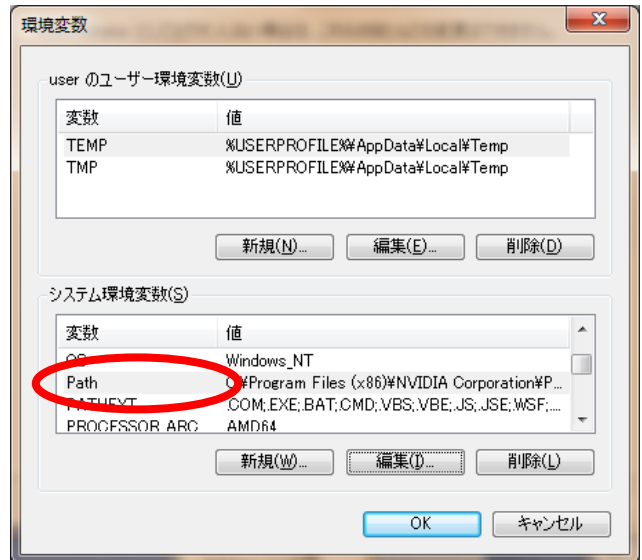
## 2 環境変数の設定

Windows キー  を押しながらか [x] キーを押して、[システム]を選択する。

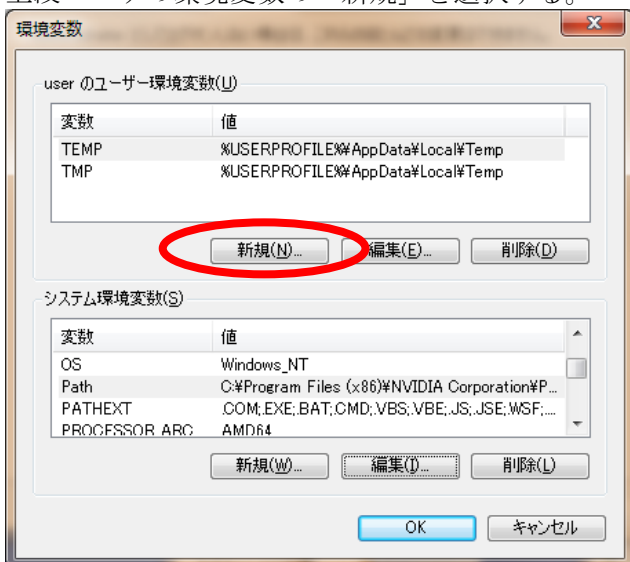




次に下段システム環境変数の Path をダブルクリックする。



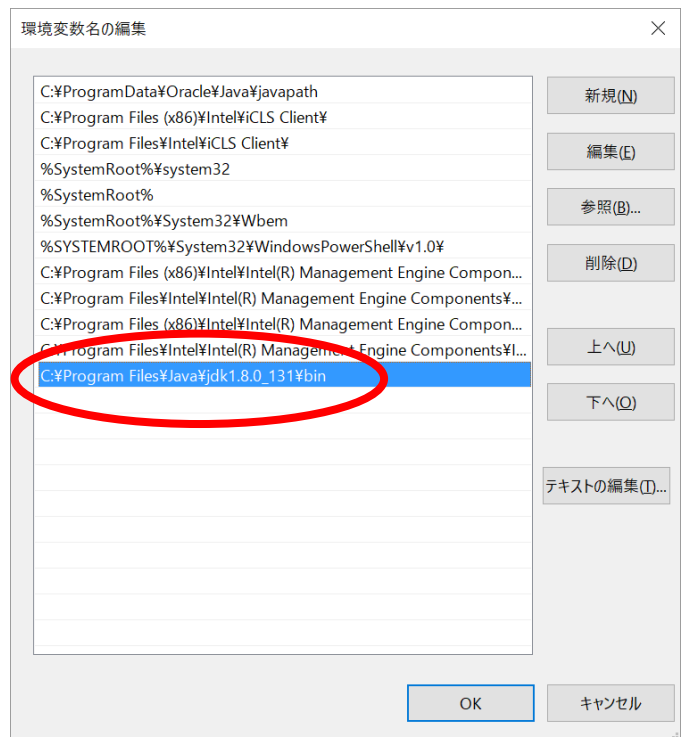
上段ユーザの環境変数の「新規」を選択する。



「新規」ボタンを押して、一番下に入力ができるようになるので

**C:\Program Files\Java\jdk1.8.0\_131\bin**

の文字列を貼り付けて「OK」ボタンを押す。(入力ミスが多く、手入力はしない方がよい)




次の画面で下記の項目に下記を入力する。

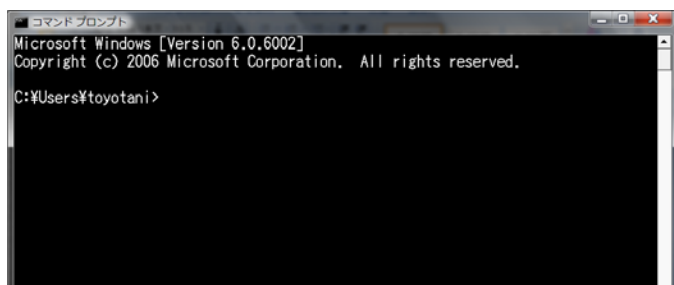
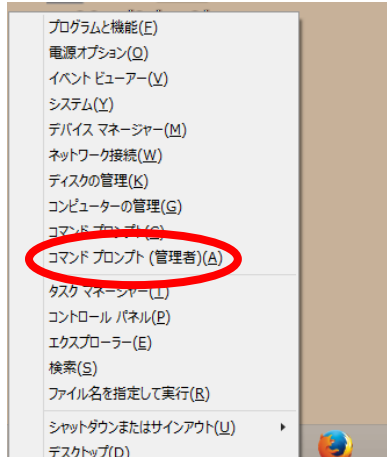
「新規」ボタンを押すと入力出来るようになるので、特に入力ミスが多いので、下記の文字列をコピーして貼りつける。(入力ミスが多く、手入力はしない方がよい)

変数名 **JAVA\_HOME**

変数値 **C:\Program Files\Java\jdk1.8.0\_131**

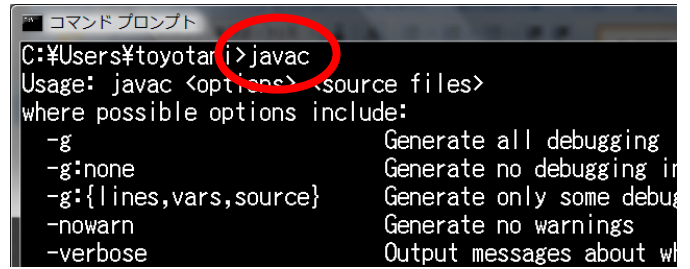
### 3 Java の実行を確認

Windows キー  を押しながら [x] キーを押して、[コマンドプロンプト(管理者)]を選択する。

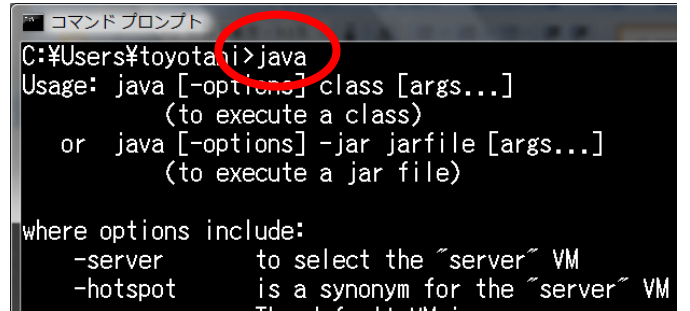


javac と入力して[Enter]キーを押すと、次のようになる。javac は Java プログラムをバイトコードにコンパイル(変換)するのに利用する。

もし、「内部コマンドまたは外部コマンド、操作可能なプログラムまたはバッチ ファイルとして認識されていません。」と表示されたら、環境変数の設定が間違っているので、設定を修正する。



次に java と入力して[Enter]キーを押すと、次のようになる。java は Java のプログラムを実行させるのに利用する。もし「内部コマンド・・・」と表示されたら、環境変数の設定を修正する。



java -version と入力して[Enter]キーを押すと、Java のバージョンが表示される。ここまで出来たら、実習課題を行なう。

以上